

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172900862		
法人名	有限会社シエナリゾート		
事業所名	グループホームことぶき ユニット2		
所在地	旭川市3条通21丁目1973番地の10		
自己評価作成日	平成30年10月22日	評価結果市町村受理日	平成30年12月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kan=true&JigyosyoCd=0172900862-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成30年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事・・・献立を作り買い出しをして手作りの食事を提供している。敷地内でも家庭菜園をし、農家さんからも旬の採れたて野菜、果実を求めて使用し、味付けや盛り付けに配慮している。
外出行事・・・四季を通して外出の機会をもちながら、、体力維持、五感刺激、気分転換に努めている(花見・いちご狩り・公園散策・美瑛の丘・紅葉と秋の味覚果樹園など)
施設内の行事・・・古来の伝統行事は一年を通じて行っている(おせち、七草・節分豆まき・雑祭・端午の節句・七夕飾り・ことぶき夏祭り・敬老会・お彼岸おはぎ・十五夜飾り・冬至かぼちゃ・クリスマス会・誕生会・百人一首・ボランティアさんの民謡、大正琴コンサートなど)
手伝い・・・朝のおしぼりたみ・もやしの芽取・煮りんごの皮むき・漬物漬けなど包丁作業も行っている
入居前からの風習を大切に、出来る事と出来ない事の見極めをしながら、日々を有意義に暮らせる様に支援します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

敷地内に家庭菜園をつくり、苗植えや野菜の収穫で季節毎の採りたての旬の食材を提供しており、家庭的雰囲気有している平成14年2月開設の鉄骨2階建て2ユニット(定員:18名)の認知症対応型共同生活介護事業所(グループホーム)です。
四季折々に旭山公園やキトウシ森林公園での花見、果樹園やイチゴ狩りに出かけたり、花菜里ランドや北彩都ガーデンへのドライブなど普段では行けないような場所でも、本人の希望を把握し、戸外に出かけられるように支援している。
また、近隣のふれあいサロンに通い地域の人々との交流や民謡、大正琴等のボランティアの協力、事業所主催の「夏祭り」を開催して家族や地元の人々に参加を呼びかけながら地域の人々との交流・連携に取り組んでいる。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)		1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 利用者の2/3くらいが			○	2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)		1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、朝のミーティングなどで共有し職員が認識して実践に繋げている	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、職員会議や内部研修会等を通じて職員間で共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の役員をしており集会などへ参加して、運営に対しても理解を求めている。公民館活動にも入居者と共に参加している	近隣のふれあいサロンに通い地域の人々との交流や民謡、大正琴等のボランティアの協力、事業所主催の「夏祭り」を開催して家族や地元の人々に参加を呼びかけながら地域の人々との交流・連携に取り組んでいる。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の集会で、認知症への理解、行動、関わり方などの研修をしたりアドバイスをしている		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の構成員では、地域住民、家族、包括職員、知見を有する者、全ての意見を聞き、改善をする点については職員に周知してサービスに活かしている	定期的に運営推進会議を開催して、ブラックアウト(停電時)の対応や事業所の取り組み状況等の具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かせるように取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	中央包括支援センターの繋がりを重視し、推進会議に参加依頼や、包括主催の研修会には参加をして、お互い協力関係を築いている	市担当者とは、研修会参加や日常業務を通じて情報交換を行い、指導や助言等を得ながら協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	『身体拘束適正化のための研修計画書』に基づき適正化委員会において研修を行っている	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を身体拘束廃止や高齢者虐待防止等の適正化委員会が中心となって職員間で正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員も虐待防止の研修会に参加し、言葉遣いや介助にも虐待が無いが、職員全員で注意をしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在も後見制度を利用している方がおり、今後必要に応じて支援していく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族は入居の際に、退居時の不安があり、重度化で医療行為の必要に伴い退居に至る事の説明をしている。料金改定の都度、家族に説明、同意書を頂いている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から家族と職員の関係を密にして、意見を聞き取りやすい環境づくりに配慮している。聞き取った意見は、職員間の周知ノートに記帳して全員が認識する	苦情等の第三者機関への申し出先を明示している。また、家族や来訪者等が意見や苦情等を言い表せるように意見箱を設置し、そこでの意見等を運営に反映できるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や朝のミーティングで出た意見は、職員間で認識したうえで改善や反映をしている	ミーティングや職員会議等を通じて職員の意見や提案、アイデアを聞く機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得時に支援を行う。年休休暇や希望休も職員全員が取りやすい環境づくりをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護の経験、資格無しでも、働きながら資格取得を進める。研修会にも、職員が順次参加して、研修内容を報告書で周知し、職員全員が共有している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	グループホームの会合には参加し情報交換を行っている。他者の施設にも推進会議に参加し、交流をして得た意見は、向上の為に反映させている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	集団生活の初めての方には、特に不安をされる要素は取り除き、明るく楽しい環境である事を感じて頂ける様に気配りをしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族の思いをよく聞き、受け止め理解をして、信頼関係を築く様に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の思いに共感し、家族と共に支え合いながら、出来る事、出来ない事を見極めて支援する。(社会資源の参加を取り入れている)		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに会話をもち、想いに理解共感しながら寄り添っている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に日々の生活を報告し、本人の穏やかに過ごせる環境作りに家族と相談しながら支えている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時や家族を招いた時には送迎などをしてふれあいを大切にしている	地域のふれあいサロン参加や馴染みの店での買い物、お花見や地域のお祭り(銀座商店街の七夕など)参加等で馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士で部屋に行きお茶を飲んだり、話をしているので孤立のしない様に見守っている。常にフロアでテレビを観て過ごす方もおり数人が集まっている		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中には見舞ったり相談を受けたりしながら、退居してからも経過を見ながら関わりを続けている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言動、行動から希望や想いを把握する様に努めている	一人ひとりの生活歴や趣味嗜好を把握し、ミーティングや日常業務を通じて職員間で情報を共有し、本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に、以前の生活の様子や利用していたサービスなどを聞き続けて通える様に支援している(ふれあいサロン)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自室で縫物を好んでしている方に、針の糸通しや、どの様に仕上がるのか・を聞きながら、根詰めて体調に影響の無い様に見守る		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族来所時には、常に生活の様子を報告し、現状と課題に沿って意見を聞きながら介護計画に反映している	医師及び看護師からの指導や助言、本人・家族からの意向や要望、カンファレンスやモニタリングで職員間で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。また、状態変化時には都度見直しを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録に沿って日々の様子、変化を職員間で共有して、情報交換を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生れるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の要望や、本人の意向を柔軟に対応している(外出支援で葬儀場に送迎・買い物支援・ほか)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域公民館の「ふれあいサロン」に参加するために送迎をし本人の心が豊かで活力になる様に支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	4週ごとに訪問診療も取り入れて、入居前からのかかりつけ医も希望に応じて受診している	訪問診療の利用や通院等への支援、日常の健康管理で適切な医療が受けられるようにしている。また、本人・家族の希望するかかりつけ医となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化を見逃さず即、連絡をして、適切に受診などが出来る様に支援している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報を提示し、面会し医師に状況を確認しながら早期に退院が出来る様に家族とも相談をしながら、退院後の対処法など病院関係者とも関わりを深めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	看とりは行っていない為、重度化に伴う支援体制は職員、医師、家族と連携を摂りながら今後の方針を支援する	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合い、事業所ができることを十分説明しながら指針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には、各自が適切に速やかに対応出来る様にマニュアルを所定の位置に置いている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	春の防火訓練には、消防署の協力を得て実施、秋には夜間想定訓練を行っており、全職員が関わりと共に、町内との協力体制も築いている	昼夜を想定しながら消防署の協力を得て年2回の火災避難訓練を実施している。また、スプリンクラーや火災報知器等の設備の点検を実施している。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬意をもち、丁寧な言葉かけをするように心がけている	職員会議やミーティング等で、一人ひとりの誇りやプライバシーを損なわないように職員間に周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	必要な買い物要望など個々に合わせて対応している。職員が決めた事で押し付けず表情や反応で意思表示が出来る様に声掛けしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	個々のペースに合わせて行動をし、職員と1対1で外出も行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの服は、本人の好みで選び、自己で決められない方には明るい色を選ぶ様にしている。外出、行事の時には、おしゃれを楽しむ様に支援している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを聞きながら献立に取り入れている(ラーメン・刺身ほか) 食事の準備、後片づけを率先して行い習慣になっている	一人ひとりの力を活かしながら、食事の準備や後片付け等を職員と一緒にやっている。また、栄養バランスや摂取カロリーに配慮しており、水分・食事摂取量を把握している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲み込みに合わせてお粥、ミキサー、トロミ付きにしたり、一日に肉、魚料理を摂り、栄養バランスを考えている。食事と水分の摂取量を記録し、不足の場合は、補助飲料と合わせている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、うがい、就寝時の義歯洗浄をし口腔ケアは徹底している。 毎月口腔ケアマネジメントを受け、職員も認識している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排便管理表で間隔を把握し、車いす使用者でも、手摺に掴まり立の出来る方は、トイレでの排泄を介助する	排便管理表で一人ひとりの排泄パターンを把握しながら、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	状態に合わせ、繊維質、乳製品などを取り入れている。 ラジオ体操など行える様に声掛けをしている。廊下歩行運動をしている時にも声掛け同行している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	個々の入浴温度の好みに合わせて順番を調節したり、体調を見極めながら支援している	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴が楽しめるように柔軟な支援をしている。	今後は、個々の希望に沿った入浴支援をしていくことを検討しているので、その実践に期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて食後の休息を望む人、日中の活動を促す人、個々に合わせて生活リズムを整えている。 夜間の不眠に対しては、お話して、お茶を飲んだりして再度臥床している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬する時は手に渡し飲めたかまで確認している。 副作用が出たり、症状の快復が無い、容量については医師と相談している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意分野で食事の後片付け、自室の掃除機掛けなど習慣にして楽しく行える様に支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に合わせ、散歩しながら地域のお店に寄り、ソフトクリームやお焼きを食べて休憩をしてくる。公民館で月1回のサロンにも参加している	四季折々に旭山公園やキトウシ森林公園での花見、果樹園やイチゴ狩りに出かけたり、花菜里ランドや北彩都ガーデンへのドライブなど普段では行けないような場所でも、本人の希望を把握し、戸外に出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	通院後の病院支払い、薬局の支払いを自分で行う様にしている。買い物でも預かり金より自分で支払う		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方家族からの手紙や荷物は、届いた事の電話連絡をして近況を話したり、写真付きの手紙を送ったりしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは、入居者同士の交流の場となる為、季節ごとに置物を替えたり、生花を活けたり、生活リズムを整えられる様に工夫している	利用者にとって、気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、共用空間には季節毎の飾りつけや行事参加の写真が掲示されるなど生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の生活リズムに合った空間にして、畳みの部屋、テーブルの配置を心がけている(ゆっくり新聞を読んだり、雑誌を観たりして過ごしている)		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は使い慣れた寝具、家具、仏壇なども配置し、鉢植えの花を置いたり好みの物で心地よく、本人の自立を優先する様に支援している	居室には、使い慣れた家具や仏壇が持ち込まれたり、家族の写真が飾られるなど本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一日の流れの中で、出来る事は率先して行える様に、包丁作業も取り入れて自立した有意義な生活を支援している		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172900862		
法人名	有限会社シエナリゾート		
事業所名	グループホームことぶき ユニット1		
所在地	旭川市3条通21丁目1973番地の10		
自己評価作成日	平成30年10月22日	評価結果市町村受理日	平成30年12月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kan=true&JigyosoCd=0172900862-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成30年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事・・・献立を作り買い出しをして手作りの食事を提供している。敷地内でも家庭菜園をし、農家さんからも旬の採れたて野菜、果実を求めて使用し、味付けや盛り付けに配慮している。
 外出行事・・・四季を通して外出の機会をもちながら、、体力維持、五感刺激、気分転換に努めている(花見・いちご狩り・公園散策・美瑛の丘・紅葉と秋の味覚果樹園など)
 施設内の行事・・・古来の伝統行事は一年を通じて行っている(おせち、七草・節分豆まき・雑祭・端午の節句・七夕飾り・ことぶき夏祭り・敬老会・お彼岸おはぎ・十五夜飾り・冬至かぼちゃ・クリスマス会・誕生会・百人一首・ボランティアさんの民謡、大正琴コンサートなど)
 手伝い・・・朝のおしぼりたたみ・もやしの芽取・煮りんごの皮むき・漬物漬けなど包丁作業も行っている
 入居前からの風習を大切にして、出来る事と出来ない事の見極めをしながら、日々を有意義に暮らせる様に支援します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Ⅴ サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の実践を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が理念を理解し、常に確認、意識しながら実践している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事(祭り等)には案内をして、交流を深めている		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の研修、行事などの参加時の機会に相談にのったり、アドバイスを気軽に提供している		
4		3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センター主催の研修会には必ず参加し、情報の交換をして積極的に連携を図っている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修で話し合い、利用者が安全に過ごせる工夫をし、家族さんと相談をし、拘束をしないケアを実施している		
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	従業者は常に連携し、入居者と寄り添いながら生活をしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度が必要と思われる相談があれば学んだ知識を活用し、アドバイスをを行いながら支援をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には不安や、疑問が生じないよう十分な説明をし、重度化による医療体制など退居後の支援も行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の訪問時には声掛けをし、直接意見、サービスの要望があれば速やかに対処し、改善している		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議他、日頃から職員の要望を聞き入れ、話し合う機会を設け、職場環境づくりに努めている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本人の意向を重視しながら資格取得に向けた支援を行い、個人が常に向上心持って就業出来るような職場環境づくりに配慮している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には全職員が交代で参加できる機会を確保し、終了後は報告書の提示をして、全職員が閲覧できるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	市内の施設見学、行事などに参加し、他事業者との交流を図り、意見交換などをして、参考にしてサービスの質の向上を図っている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の今までの生活状態を理解し、傾聴し、本人が飽して生活が出来る様な環境作りに配慮している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っている事や不安な事を良く聞きどのような対応が出来るか話し合いをしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の思い、状況等を確認し、可能な限り柔軟な対応を行っている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側という意識は持たず和やかな生活が出来るよう声掛けをしている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状態をこまめに報告、相談する。又、家族と同じような思いで支援している事を伝えている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	理容院、ふれあいサロン参加など一人ひとりの生活習慣を尊重している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について全ての職員が共有できるようにしている。又、円滑になる様働きかけてる		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方も行事に招待したり、継続的な付き合いが出来るよう心掛けしている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活をしていく中でどうしたいか等、話をし検討する様務める		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人に昔の話、暮らしぶりなどを聞き把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調に変化は無い、行動の変化はないかなど把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の来所の際には生活の様子などを報告し、現状について話し合いをしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を記入し、報告、ミーティング等に職員間で話し合いをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族さんに対応して、支援やサービスを出るよう努めています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署と町内の方々の協力により避難訓練の実施をしている 訪問理容室サービスを利用している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望に応じて医療機関を受診している		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や表情の変化を見逃さないよう、早期発見に取り組み、変化等に気がついた事があれば、常に報告し、適切な医療につなげている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には週に1回は職員が見舞うようにし、家族とも回復状況等、情報交換するように努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う支援体制は本人や家族の意向を踏まえ医師、職員で連携をとり急変時に対応できる様、取り組んでいる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の勉強を習得、身につけるよう心がけている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜問わず利用者様が安全に避難、また誘導が出来るよう定期的に訓練を実施している		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ合いになり無視した対応を取らず、言葉づかいに気を付けるよう心がけている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や反応に注意し、自己決定が出来るよう心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	毎朝のラジオ体操、天候の良くない日は、テレビを見ながらの談話		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の交換はさりげなく交換をしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	料理のお手伝い(出来る事)片づけを一緒に 行っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	キザミ、ミキサー食は、摂取しやすくし、水分も不足しないよう気を付けている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	三食、食事の後は必ず歯磨き(入歯洗浄)のお 手伝いをしています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄は本人の体調に合わせて必ず声掛けをし て、トイレに誘導して介助している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因をなくす様に野菜を残さず食べて いただき、現状維持出来る様に体を動かして頂 いています		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	入居者さんの体調に合わせてシャワー浴や入 浴をして頂き、入って良かったと喜んでいただ いている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動内容を考慮して、生活リズムを整え るよう努めている。不眠の方には、会話を持 ち、心落ち着く様に支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を理解、把握し、服用時には飲み終 えるまで確認をしている。症状の変化には医師 の情報提供をしながら、服薬調整を図っている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の分野でも力を発揮できる様、朝のおしぼりたたみ、調理後の食器洗い、畑作業など出来る事への役割などに配慮している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候と体調に合わせて季節の味や花を見にドライブをしながら美味しい物を味わって積極的に外出している		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	病院受診やドライブに出かけた時、希望に沿って売店等でお買い物をする方もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の方は、自由にかけたりして、お話をされている。希望があれば、友人、家族に事務所から電話を繋いでいる		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さんが安心して生活出来るよう心かけてる。ホールでのテレビ、玄関の生け花等、和める雰囲気づくりをしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の場(ホール・廊下)に自由に来られ、テレビを観たり、新聞を読んだり、廊下の写真などを見て過ごされています		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に使い慣れた布団、たんす等を配置し、日々の暮らしが楽しく過ごせるよう、工夫している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食器洗い、ふきん縫い等、一緒に行う、又出来る事を見守りながら自立した生活を送れるよう工夫している		

目標達成計画

事業所名 グループホームことぶき
作成日: 平成 30.年 11月 30日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に 要する期間
1	45	入居者さんの希望に沿った入浴支援	職員の都合で曜日や時間帯を決めたり、変更になったり無い様に、個々に沿った支援が出来る	職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしていく。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。
注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。

タンジェント株式会社